山本参与提出資料

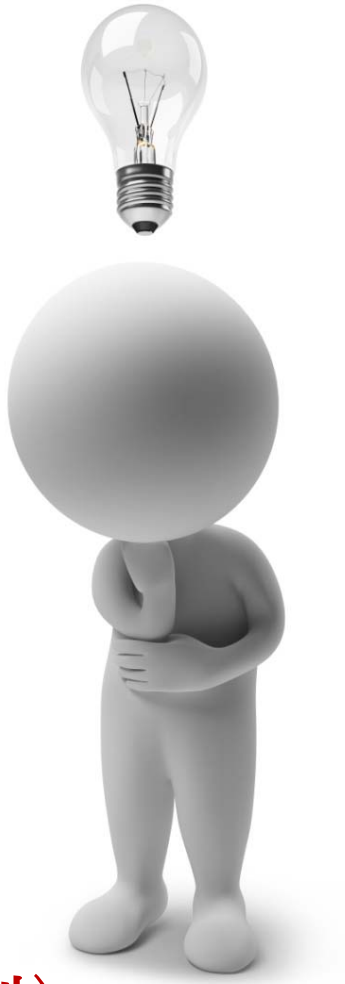
Medical Excellence JAPAN

わが国医療の国際展開への取り組み
～MEJの役割と課題～

一般社団法人Medical Excellence JAPAN
理事長　山本　修三

日本の医療成長戦略　～AMEDと医療の国際展開～

- 日本の医療は良い医療
- しかし、医療機器、薬剤の貿易収支は、3兆円に近い赤字
- これまでの調査から、日本が関与可能な医療市場は約20兆円
- 世界には、日本の医療を求める国もある
- これまでJICA等の実績もある
- 医療国際交流を通じて、日本の国際的地位を認識、向上
- 上記等を踏まえた**医療成長戦略の二本の柱**



1　AMED

医学研究の推進、機器・創薬等の開発を効率的に推進

2　医療の国際展開

日本の良き医療をパッケージでの国際協力を推進（MEJの役割）

国際医療協力推進の推進イメージ

- 相手国の健康改善、経済成長市場の創出
- 日本のプレゼンス・信頼の向上、日本経済の成長

MEJの活動が提供するメリット

相手国

- ハード（機器・建物）＋ソフト（人材教育・運営支援）のパッケージ
- 日本政府一体となったバックアップ　※信頼性
- 一本化された窓口　※政府、病院、企業へのアクセス

日本の医療界

- 国際的な活躍・修練の場を提供
- スムーズな国際活動の支援
- 収益拡大の機会　※インバウンドなど

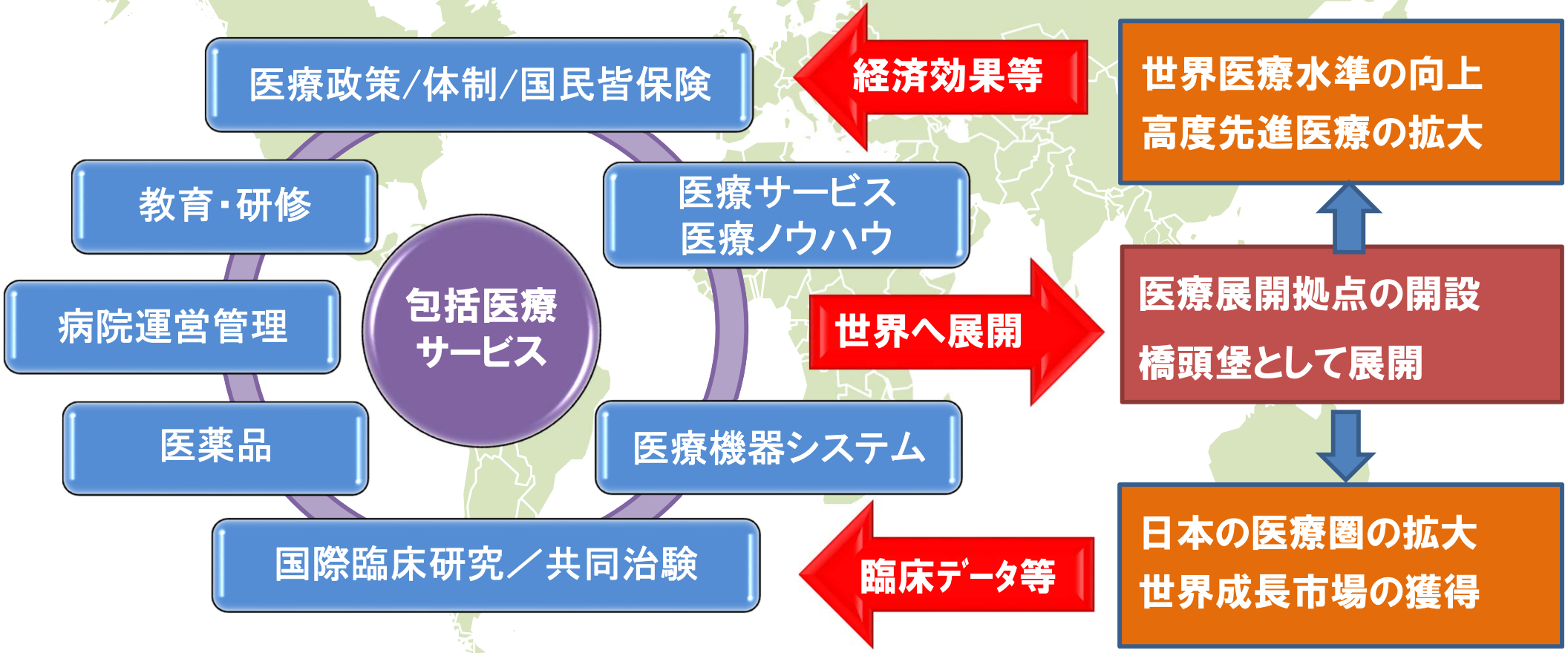
日本の医療産業界

- 顧客ニーズの把握
- 事業機会となる情報へのアクセス
- 医療サービスとのマッチング

※医療人材教育などのパッケージ提案が可能

日本の医療の国際展開

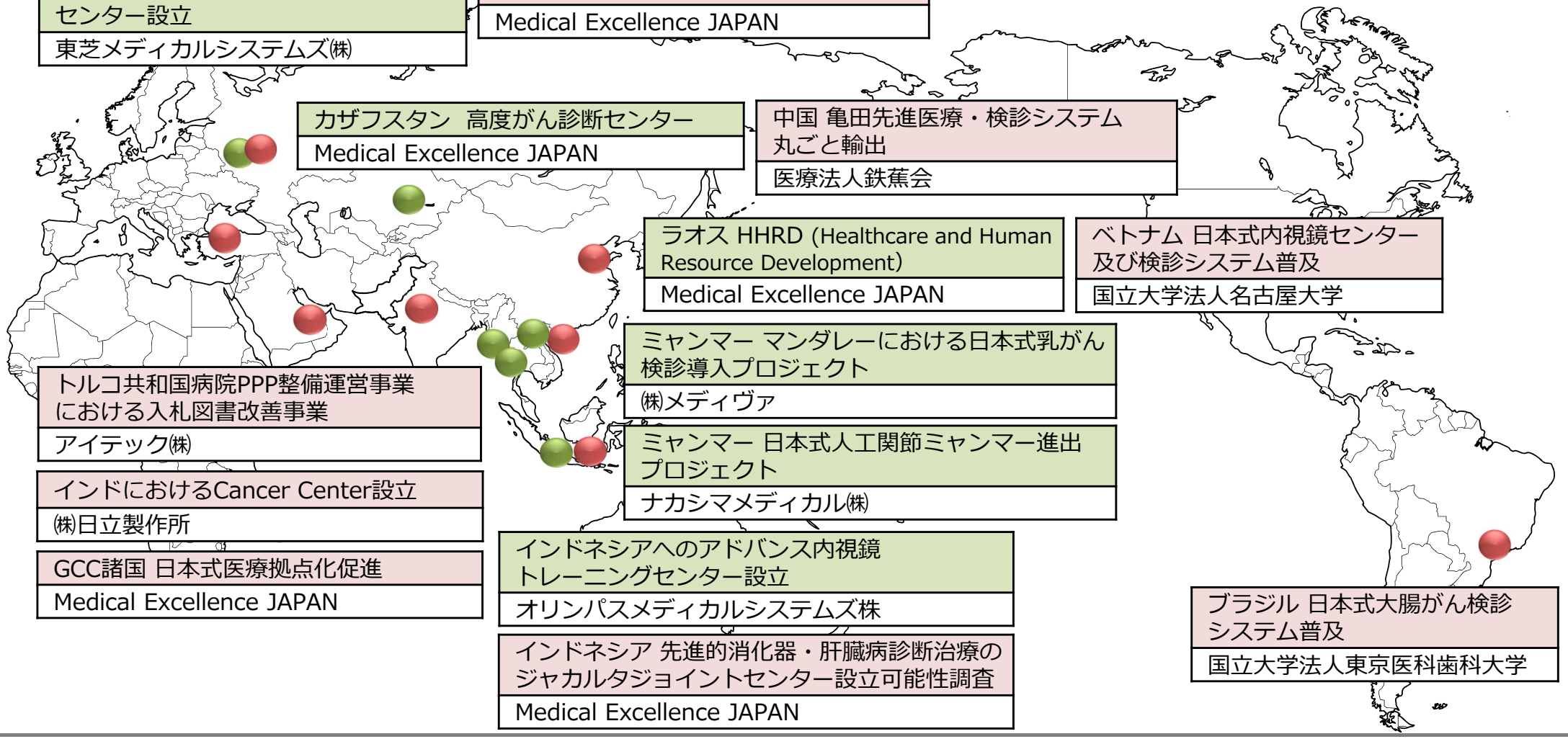
- 各国の医療ニーズを踏まえて日本の優れた医療サービスを活用し、各国の社会や経済に適した包括医療システムを提供し、保健医療水準の向上に貢献する。
- ＭＥＪは、官民連携のオールジャパン事業の民間側の事務局を務める。



平成25年度 経済産業省 補正予算
「医療国際展開加速化促進事業」拠点化促進中

委託事業　拠点設立事業化促進・開業整備事業

補助事業　日本式医療拠点化機器導入支援事業



- ロシア　循環器画像診断トレーニングセンター設立
  - 東芝メディカルシステムズ㈱
- モスクワ 日口先端医療センター
  - Medical Excellence JAPAN
- カザフスタン　高度がん診断センター
  - Medical Excellence JAPAN
- 中国 亀田先進医療・検診システム丸ごと輸出
  - 医療法人鉄蕉会
- ラオス HHRD (Healthcare and Human Resource Development)
  - Medical Excellence JAPAN
- ベトナム 日本式内視鏡センター及び検診システム普及
  - 国立大学法人名古屋大学
- ミャンマー マンダレーにおける日本式乳がん検診導入プロジェクト
  - ㈱メディヴァ
- ミャンマー 日本式人工関節ミャンマー進出プロジェクト
  - ナカシマメディカル㈱
- トルコ共和国病院PPP整備運営事業における入札図書改善事業
  - アイテック㈱
- インドにおけるCancer Center設立
  - ㈱日立製作所
- GCC諸国 日本式医療拠点化促進
  - Medical Excellence JAPAN
- インドネシアへのアドバンス内視鏡トレーニングセンター設立
  - オリンパスメディカルシステムズ株
- インドネシア 先進的消化器・肝臓病診断治療のジャカルタジョイントセンター設立可能性調査
  - Medical Excellence JAPAN
- ブラジル 日本式大腸がん検診システム普及
  - 国立大学法人東京医科歯科大学

海外医療戦略、今後の課題

- 海外医療推進チーム日本のあり方と戦略
- 人材育成センターの構築
- MEJアカデミア（仮称）の創設
- 事業推進の仕組み構築
- 日本医療ブランドメニュー
- 相手国及びパートナーの選定
- インバウンド整備
- 医療機器流通促進体制の整備

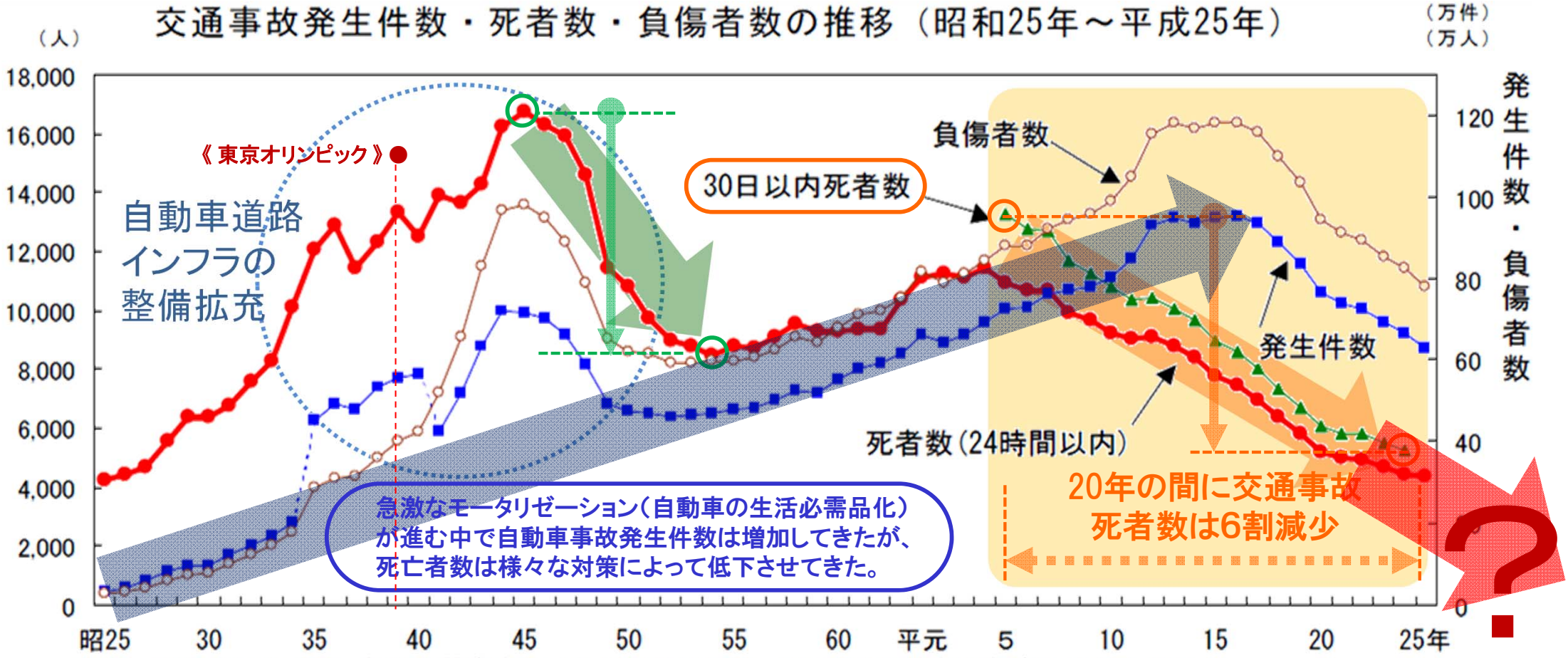
【参考資料】

新興国における救急医療を考える

日本の救急医療の生い立ちと今後を見据えて・・・

交通事故死者数推移

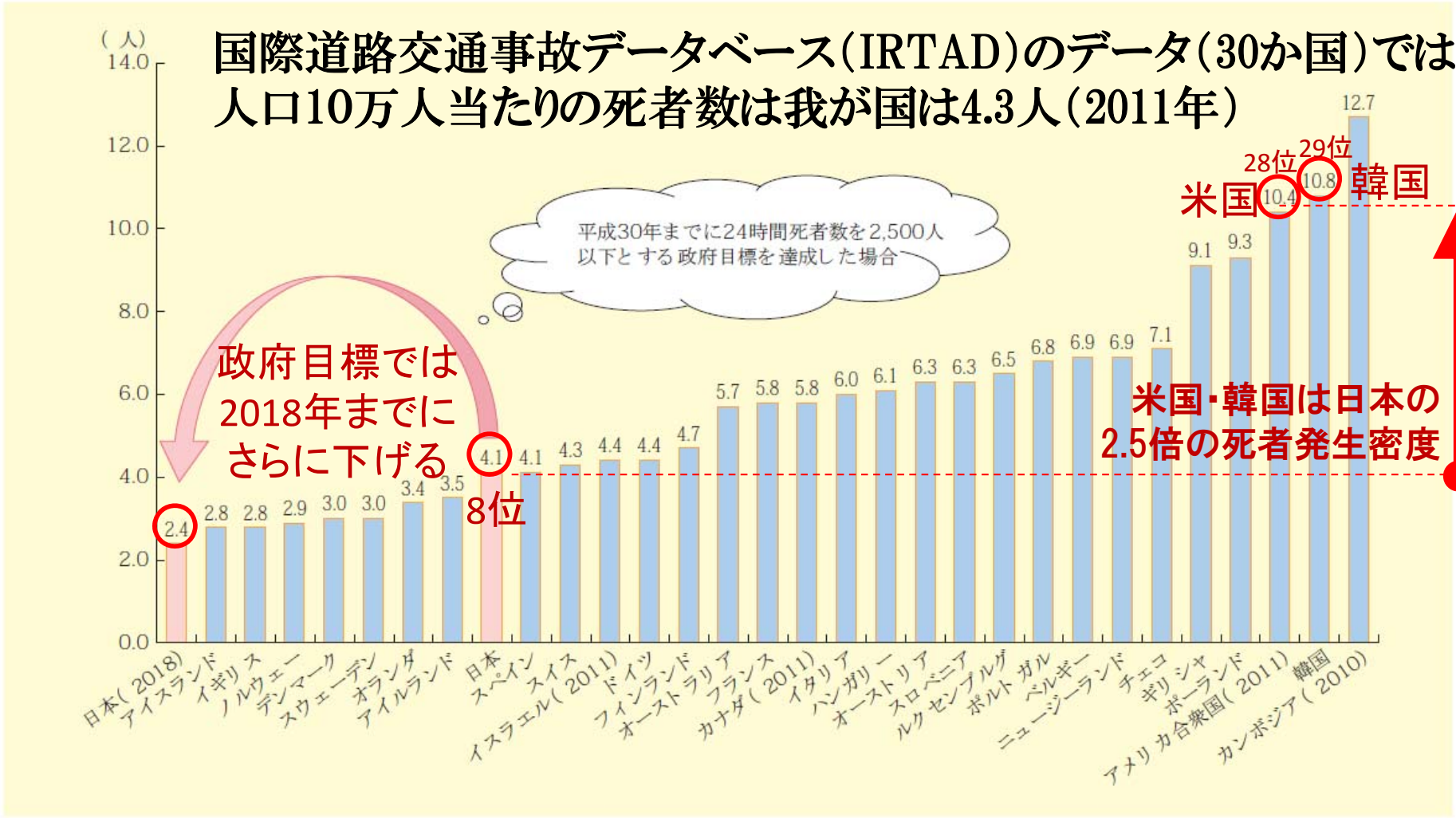
①衝突安全性向上技術　ボディの強化・エアバッグの普及
②少子化高齢化　事故率の高い若者の人口減少
③救急医療体制の整備　ドクターヘリなどの導入



注１　昭和34年までは、軽微な被害事故（８日未満の負傷、２万円以下の物的損害）は含まない。
　２　昭和40年までの件数は、物損事故を含む。
　３　昭和46年までは、沖縄県を含まない。

※警察庁・道路と交通に関する統計から

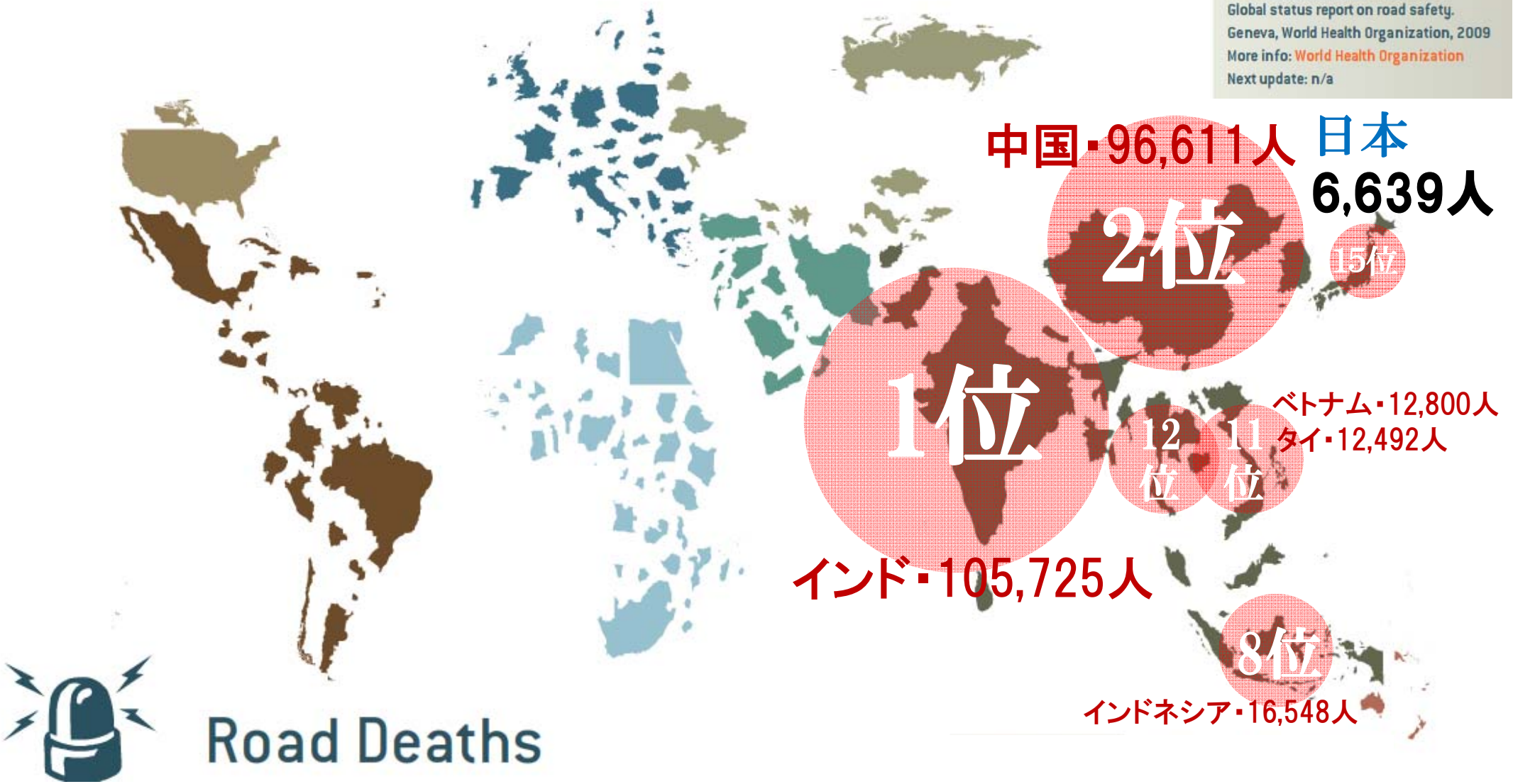
日本は先進国内で交通事故による死者数率が低い



注　1　IRTAD資料による。
　　2　国名に年数（西暦）の括弧書きがある場合を除き，2012年の数値である。（ただし，「日本（2018）」を除く。）
　　3　数値は全て30日以内死者（事故発生から30日以内に亡くなった人）のデータを基に算出されている。
　　4　日本（2018年）の数値は，政府方針である2018年（平成30年）の24時間死者数の目標2,500人に，2012年の日本の24時間死者数と30日以内死者数の比率を乗じることで2018年における30日以内死者数を2,968人と推定し，この推定死者数と125,236千人（2018年における日本の予測人口）を用いて算出した（125,236千人は国立社会保障・人口問題研究所「総人口年齢3区分別人口及び年齢構造係数：出生中位（死亡中位）推計」（平成24年1月推計）より引用）。

※平成26年版交通安全白書から引用

世界の交通事故死者数は驚くほど多い



インドネシア・ベトナム・タイは日本の倍ほどの死者数がある